

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 22 年度

事業所番号	2772401259		
法人名	医療法人 美杉会		
事業所名	グループホーム美杉		
所在地	大阪府枚方市西招提町2166番地		
自己評価作成日	平成 22年 5月 6日	評価結果市町村受理日	平成 22年 6月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772401259&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 5月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんの生活の安定を図りつつその人らしい生活を過ごしていただけるように職員と入居者さん、家族さん、地域の方々と共に話し合いながら生活環境を整えていけるよう取り組んでいます。また、入居者さん一人ひとりに合せた支援が出来るよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営するグループホームで老人保健施設が併設されています。ホームの居間には大きなソファが置かれ、ゆったりとくつろげる場所になっています。居室には机と椅子が置かれている部屋が多く、お茶道具などもあり、家族や友人等が来られて一緒にくつろげるようになっています。家族会を年3回開催し、家族の意見や要望を聴取して運営に生かしています。希望者には看取り介護を行う方針があり、過去に看取り支援を行った経験もあります。併設老人保健施設やデイサービス利用者との交流があり、老人保健施設の催しに参加して知人・友人と出会うこともあります。また、家族が依頼された朗読ボランティアや市から派遣された介護相談員と話をすることもあり、近くの保育園や小学校・中学校との交流もあります。ホームでは「地域の中でその人らしい生活が支援できるように、地域とのつながりを大切にしていきます。」と理念に明記し、職員の育成に力を入れながら、地域密着型サービスの提供に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常における話し合い、会議やケアカンファレンスの時などに話し合っています。	理念では「地域の中でその人らしい生活が支援できるように、地域とのつながりを大切にしていきます」として、地域密着型サービスの意義を踏まえたサービス提供を明確にしています。管理者は職員と理念を共有し、日々の支援に活かすよう努力しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの立地が老健と併設で地域の住民と交流をとるのは難しいが週に2～3日は近所のスーパーへ買い物に行くなど交流の機会を作れるよう努めています。	併設している老人保健施設やデイサービス利用者を尋ねたり、ホームに遊びに来られたりしています。また、老人保健施設の催しに参加し、地域ボランティアや友人と話をしたりする機会もあります。家族が依頼された朗読ボランティアが来られたり、市から派遣された介護相談員と話をされたりして馴染みの関係を楽しまれています。近くの保育園や小学校、中学校との交流やスーパーへ買物に出掛け、地域の方と話をする機会もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で入居者さまの日常の生活についての話をしています。認知症について地域住民の方が気軽に相談できる場所としてあるとともに介護教室等を開催して家族や地域の方にグループホームや認知症を理解してもらえよう取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催しています。運営推進会議の構成員の協力により地域行事に参加できるようになり、入居様も地域に参加することで活動的になられています。	運営推進会議は2カ月に1回、定期開催をしています。ホームからは利用者支援や健康面での留意点、行事や地域との交流について、また情報の公表や外部評価調査等についての報告をしています。参加者からは事故予防と対策、病気の予防と健康面での課題、ホームへの要望や助言について、意見交換をしています。出された要望や意助言等はホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連携や連絡を取り合っています。	事故報告書や外部評価結果については市担当課へ持参して報告しています。また、利用者の入居の基準に関する相談や、判断に困る課題については電話等でその都度相談し、助言を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の安全を確保しながら一人ひとりの自由な生活を支援できるように努めています。	身体拘束は行わない方針です。言葉での行動制限も行わないように、小さなことまで確認して配慮しています。鍵をかけないケアについては、外部からの侵入者の問題があり実行できていません。門扉や1階の玄関、老人保健施設に繋がる通路には終日鍵をかけています。	外部からの侵入者については、中からは開き、外からは開けられない鍵を使用するなどの工夫をされてはいかがでしょうか。利用者の安全確認を十分に行いながら、鍵をかけないケアを実践することが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や勉強会で意識の向上に努めています。入居者さまの家族等からの意見を聞き、状況を確認して虐待が見過ごされることが無い環境づくりに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	適時、関係機関と相談しながら成年後見制度を活用しています。開設以来4名の利用者さまの手續に関わりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際には家族様との話し合いを十分持つようにして不安や疑問点については十分説明を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来所時には必ず声をかけ職員と良好な関係を築けるように努めています。また、玄関には家族様等からの要望が反映できるようご意見箱を設置しております。	家族会を年3回開催し、家族の意見や要望を聴取してホーム運営に生かしています。運営推進会議には家族代表の参加を要請して意見を出してもらっています。また、家族の訪問時には職員から声をかけて、意見や要望を出してもらうようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員と管理者が話し合いの場を持っています。	会議やカンファレンス等で出された職員の意見や要望、提案などはホーム運営に生かすよう努力しています。また、個々にも意見は聞くようにしていますが、昨年には管理者と職員の個別面談を行い、職員一人ひとりの意見を積極的に把握する場を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より職員と話す機会を設けて職員ひとりひとりが向上を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場での勉強会を定期的実施しています。法人内の研修は段階に応じて行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター職員の指導の下、地域内のグループホームが集まり情報交換等を行っています。全職員が他のグループホームとの交流を通じて情報交換が行えるように努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず見学に来ていただき本人様、または、家族様から希望等を確認するようにしています。入居時には更に詳しい話しが聞けるように書面にて確認しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでにいつでも本人様や家族様が来所したり電話で相談できるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には必ず本人様と家族様との面接を行いインタビューで必要とされる支援を確認し、計画作成担当者を含めた職員で話し合い検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に家事をしたり園芸をすることで入居者様に教わることが沢山あり職員と入居者様とが共に生活している環境と関係を築くよう努めています。また、レクリエーション等で入居者様同士が楽しい時間を共有することでお互いの思いが感じれるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話連絡をした際には、最近の状況を報告しています。嬉しい事柄は共に喜び、辛い表情をされているときには原因を共に模索しながら解決できるように入居様との良好な関係を築くことに努めます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は十分に支援できていませんが今後の課題として家族様の協力を得ながら個人の時間を利用して支援できるように努めていきたいと思っております。	利用者は隣接する老人保健施設やデイサービス利用者とはふれあい、旧知の仲を温める機会を持たれています。また、家族の支援もあり、以前からのかかりつけ医の受診や美容院を利用するなど、馴染みの関係が保たれています。利用者が年賀状を出したり、手紙を書いたりされる場合に職員がサポートすることもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での行動や発言を見守り職員同士で情報の交換をしながら支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム側から連絡することはしていませんが会う機会が来た際には必ず声をかけて状況を確認するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話を聞く機会を持つようにして職員は常に入居者様が何を望んでいるか把握するよう努めています。本人の意向などが把握困難な場合は本人の視点に立って話し合います。	職員は常に利用者の思いや願いを理解して支援するように努めています。また、介護相談員や知人が来られた場合など、日頃は出されない利用者の要望などを聴き取ってもらい、実現するように取り組んでいます。	「今後は一人ひとりに合わせた対応や支援をその都度話し合い、ニーズに対応していきます」として、利用者の思いの実現を課題として取り組む方針を明確にしているため、今後は更にサービスが充実するよう取り組むことが望まれます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様から生活歴や馴染みの暮らし等について話があれば記録に残し職員に周知するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に話しをしたり作業をする中で多方面から入居者様をみるように努め、その内容を記録に残し他の職員とも話し合うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々のケア中、入居者様の状況に気づきの視点をふまえた記録に努めケアカンファレンスでは家族様の意見も含めた話し合いをして介護計画を作成しています。</p>	<p>介護計画作成時には丁寧にアセスメントを行い、利用者・家族の思いや願いを反映するように努めています。月1回モニタリングを行い、計画がスムーズに実践されているかを確認しています。また、3ヵ月に1回計画を見なおして、現状に即した計画になっているかを確認します。必要時には、ケアカンファレンスに家族や利用者も参加してもらい計画を作成しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員が入居者様ひとりひとりの介護計画を把握し、それに基づいて記録できるよう努めています。記録内容を根拠にしながらかつて介護計画の見直しも実施しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりの要望を聞きだすことに努め状況に合わせて様々な支援が出来るようにしています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>法人の資源と協力を得ながら協働で利用者様を支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診（佐藤医院）の際に変化があれば看護師、職員から連絡をしています。医師からの指示や連絡事項は必ず家族様へ伝え逆に要望等があれば医師と話し合いの場を持つようにしています。また、医師の指示でムンテラを行う場合もあります。	入居前からの、かかりつけ医院等を受診されている利用者が数名おられます。希望される利用者には2週間に1回、提携医療機関の在宅医療部医師における往診があります。その他、緊急時や家族の都合がつかない場合等には、提携医療機関やかかりつけ医の受診支援もしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健施設の看護師を配置し常に連絡を取れる体制を確保しています。必要に応じて家族への連絡も行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関へ入院した際には、こまめに状況を確認して家族とも連絡、相談が行えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>配属された看護師を中心に医師、家族様とも連携を図ったうえで全員で方針を共有しています。</p>	<p>希望の方には看取り介護を行う方針があり、過去に看取り支援を行った経験もあります。入居時に看取りについての家族意見や本人の意向を「看取り同意書」で確認しています。重度化された場合にはその都度、家族意向を確認しています。必要がある場合には医師、看護師を含む職員と家族で話し合うこともあります。職員は看取り介護に備えた学習もしています。</p>	<p>ホームでは重度化した場合の支援について充実する計画をしています。今後は家族や本人の意向を大切にした終末支援が医療連携のもとで、さらに充実されることが期待されます。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会に参加して定期的に訓練を行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の意識啓発に努めています。訓練の際も順番にすべての職員が参加できるように配慮しています。災害の発生に備え食料や飲料水等を併設の老健美杉や佐藤病院と共有しながら準備しています。	年に2回災害時避難訓練を行っています。そのうち1回は消防署の指導を受けて本格的な訓練をしています。訓練では役割を決め、事前会議で訓練内容を確認してから実践をしています。ホームで火事が発生した場合、非常ベルが鳴ると同時に玄関等の鍵は自動的に解錠するようになっています。また、非常時消防署へのオンコールシステムもあります。災害に備えての備蓄は、ホーム内と隣接する老人保健施設内に分けて管理しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の意識を高め入居者様一人ひとりの尊厳やプライバシーを大切にしながらケア(関わり)に努めています。定期的に勉強会や詰所会議等で勉強したり話し合ったりしています	接遇や対応について職員間で学びあい、勉強会をするなど利用者一人ひとりの尊厳や誇りを大切にする取り組みをしています。また、リビングからトイレが見えるので、つい立てをして見えなようにしたり、オムツなどは目につかないように配慮したりして、プライバシーの確保に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言葉に耳を傾け本人が望んでいることに気づけるよう努めています。また、入居者様の思いを尊重するよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様や家族様から今までの暮らし方を確認し、望んでいる生活がどのようなものであるか職員同士で話し合い希望に沿った支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望を確認しながら家族様と相談のうえで理美容などを行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る人味見をするひと配膳する人、洗い物をするひととそれぞれの状況に合わせて役割を持って頂いています。	朝食はホームで作るため、利用者とともに買物に出かけることから取り組んでいます。昼食、夕食は併設施設で調理したものをホームで盛り付け、配膳をするなど利用者とともに楽しんでいます。利用者はそれぞれのこと、得意なこと役わりを持ち、力を発揮されています。一部では職員が洗い物等で忙しく、利用者の見守りが行われていない時間ありました。また、利用者と一緒に、食事を楽しむ時間が持てていない場面がありました。	今後は、後片付けは食後に行うことにして、利用者への支援を優先してはいかがでしょうか。食事時の利用者への対応について工夫することが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みに配慮しながらバランスも考慮して支援を行っています。食事の摂取量が極端に減少した場合は職員間や家族様と話し合い個々に合わせた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアの声かけを行い見守り、又は援助を合わせて行うことで口腔内の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあわせた排泄の援助を行っています。一人ひとりの排泄リズムを知ることによって排泄の自立に向けた支援に努めています。家族様と相談のうえ入居者様の尊厳を大切に声掛けを行っています。	介護度が高くなるにつれてオムツやパッドの使用が多くなっていますが、時間を見て声かけをする、トイレに誘導するなど、できるだけオムツ類を使わない支援を心がけています。また、オムツ類を使用されている場合には清拭や洗浄をして清潔保持に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック、食事量の把握を徹底している。状況に応じて水分摂取を促したりフルーツや繊維質の摂取等の配慮を行っています。また、散歩などの適度な運動も支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の希望を尊重しながら時間頻度等を考慮しています。	利用者の希望や体調に合わせた入浴支援をしています。利用者は週に1回～3回の入浴をされていますが、入浴を好まれない利用者にはタイミングを見て入浴に誘ったり、清拭をしたりして清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室やリビング、中庭などで事由に過ごしていただいています。夜間、眠れない方には見守りを行ったり話しをして気持ちを安らげたりホットミルク等で体を温めたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の際、医師より説明を受け家族様にも報告を行っています。不明な点や変化があれば医師、看護師に相談しています。服薬の支援も適時行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や楽しみごと趣味などは記録に残し職員会議やケアカンファレンスの中で話し合い出来ることから実現していけるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに合った外出を企画できるように努めています。一人ひとりの時間をつくり本人の行きたい場所や食べたい物を買に行きなど本人様と家族様と話し合いながら企画していきます。	活発な利用者は週に数回外出をしておられますが、希望の少ない利用者や外出が苦手な利用者がホームの敷地外に出ることは少ない状況です。職員は利用者が新聞をポストまで取りに行かれることをサポートしたり、中庭に出て外気浴を勧めたりして、外出の少ない利用者にも配慮しています。	外出の少ない利用者がホームの門を出て日常と違う景色を見たり、知らない人と出会ったりしてリフレッシュできるように、さらに外出支援を充実することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、入居者様に支払いをしていただくことがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の希望があれば代行してダイヤルを援助しています。手紙等に関しては、ご家族に確認してから代筆など援助します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節ごとに壁画を変え季節の変化を楽しめるようにしています。	フロア中央に台所があり、周りに居室と居間、食堂があります。居間には大きなソファが置かれ、ゆったりとくつろげる場所になっています。また、たたみ部分で手作業をしたり寝そべったり多目的に使えるようにしています。台所横には作業台が置かれ、皆でいろいろ取り組めるようにしています。1階の玄関を出ると広いテラスがあり、くつろげるようにベンチが用意されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや中庭で自由に過ごしていただけよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時あるいは適宜本人様や家族様の意向を確認した上で使い慣れた机やタンス、椅子、趣味に関するものなど持ってきていただき使用されています。	居室には机があり、向かい合わせに椅子が置かれている部屋が多く、お茶道具などもあり、家族等が来られても一緒にくつろげるようになっています。テレビや衣装棚、写真などを置き、どの部屋も清潔で落ち着いた雰囲気にとめられ、居心地よく過ごせるように工夫されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室に段差はなく玄関も出入りしやすくなっている。廊下、トイレ、浴室には手すりが設置されており安全な移動に配慮しています。居室内には洗面台も設置されています。		